

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	アルツハイマー病におけるミクログリアの細胞分子プロファイリング
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
1989年1月1日以降2027年8月31日までに、本学および関連病院において、試料提供者の親族から同意を得て新潟大学脳研究所病理学分野の教室員が行った病理解剖例で、病理診断されたアルツハイマー病の患者さんから20名程度、および中枢神経疾患を持たない患者さんから20名程度、Nasu-Hakola病の患者さんから数名程度です。	
③概要	
<p>ワシントン大学との共同研究により、アルツハイマー病において疾患病態に関与していると考えられている細胞、ミクログリアについて、その発生、分化、増殖や活性化に関与する遺伝子の多型を検討し、動物実験で病態進展との関連を検討します。また、そこで得られたデータをもとに、病理解剖で採取された患者さんの脳の凍結組織を用いて、それらの遺伝子の多型や、RNAの発現解析を行います。正常者や、ミクログリア異常症であるNasu-Hakola病の患者さんと比較することにより、アルツハイマー病の病態に関わるミクログリア関連の遺伝子多型やRNA発現が明らかになり、新たな治療標的が見出される可能性があります。</p> <p>本研究課題は本学の遺伝子倫理審査委員会にて承認され、これに基づき、米国へ試料及び付随する臨床情報が提供されます。</p>	
④申請番号	G2018-0013
⑤研究の目的・意義	<p>我が国や米国等の超高齢化社会を迎えている国においては、認知症、特にアルツハイマー病の治療は医学的のみならず社会的・経済的にも急務です。現在世界中でさまざまなアルツハイマー病の根本治療薬の開発が行われていますが、認可されたものは未だ得られておらず、多方面から治療標的の模索が続いております。</p> <p>本研究では、アルツハイマー病の進展に関与している細胞として知られているミクログリアについて、細胞分子学的に詳細なプロファイリングを行い、ミクログリアが治療の標的となりうるかどうかを検討します。</p>
⑥研究期間	2018年10月24日～2028年8月31日
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	ワシントン大学に試料及び付随する臨床情報（年齢、性別、臨床診断名、罹病機関、中枢病理所見）を提供し、アルツハイマー病の治療を目指した研究に役立てます。
⑧利用または提供する情報の項目	病理解剖にて採取した凍結脳、臨床情報（年齢、性別、臨床診断名、罹病期間、中枢病理所見）

㊟利用の範囲	新潟大学脳研究所病理学分野およびワシントン大学
㊟試料・情報の管理について 責任を有する者	新潟大学脳研究所病理学分野 柿田明美
㊟お問い合わせ先	新潟大学脳研究所病理学分野 柿田明美 電話 : 025-227-0633 FAX: 025-227-0817 e-mail: kakita@bri.niigata-u.ac.jp